



## 産業厚生委員会先進地行政視察報告書

期 日 令和元年7月9日（火）～10日（水）【1泊2日】

調 査 市 **大阪府 高石市**（7月9日訪問）  
**岡山県 岡山市**（7月10日訪問）

出張者 委員長 西 別 府 治 ・ 副委員長 福 田 清 宏  
委 員 吉 留 良 三 ・ 委 員 江 口 祥 子  
委 員 原 口 政 敏 ・ 委 員 下 迫 田 良 信  
委 員 宇 都 耕 平 ・ 委 員 平 石 耕 二  
随 員 福 谷 和 也  
【当 局】政策課長 北 山 修

◎上記のことについて、次のとおり報告いたします。

今回の先進地行政視察では、健康意識の高い人も、そうでない人も歩きたくなる、歩いてしまうまち「スマートウェルネスシティたかいし基本計画」を策定し、「市民主体のやさしさと活力あふれる健幸（けんこう）のまち」を目指している高石市、「運動」・「栄養・食生活」・「社会参加」といった健康につながる活動をするを通じて、医療費・介護費の適正化を目指している岡山市の2市を調査した。

### 【高石市】 調査事項：スマートウェルネスシティの実現に向けて

高石市は、人口約5万8千人で、大阪府の南部に位置し、北と東は堺市に、西は大阪湾に面し、市内の3駅から大阪の中心部まで約20分、また関西国際空港にも20数kmと近く、温暖な気候と相まって、便利で住み良い住宅地として発展している。平成23年に少子高齢化による地域活力の低下を防ぐ、また国保などの医療費を抑制するため、「スマートウェルネス総合特区」に参加した。

#### ○スマートウェルネスシティとは

スマート（賢明、快適、エコ、美しい）・ウェルネス（健幸、安心）・シティ（まちづくり）の最善・最良を実現するという考え方である。

#### ○「スマートウェルネスシティたかいし」基本計画について

自律的に「歩く」ことを基本とする健幸のまち「スマートウェルネスシティ」を構築することにより、健康づくりの無関心層を含む市民の行動変容を促し、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な予防型社会を創ることを基本理念としている。

ハード事業として、健幸づくり拠点（休憩施設・健康遊具）とウォーキングコースを整備している。整備の特徴として、幅の広い歩道の整備・自転車専用道の整備・電線の地中化・LED照明の設置等が挙げられる。特に、南海中央線整備事業では、せせらぎの整備に

より、水辺空間を創出し、「歩きたくなる・歩いてしまう」歩道を整備した。ソフト事業として、健幸づくり教室・市民参加型のウォーキングイベント開催（年2回）・市民ボランティアの自主的な運営による健幸ウォーキング（毎週5日間、市内5カ所で実施）を開催している。

### ○健幸ポイント事業について

名 称	健幸ポイントプロジェクト	高石健幸ポイント
実 施 期 間	H26～H28	H29～
補 助 金 等	スポーツ庁補助金（総合特区：全国6市実証実験）	単独事業
対 象 者	40歳以上の市民	20歳以上の市民
参 加 人 数	H27：1,401人 H28：1,430人	H29：2,536人 H30：2,959人
ポ イ ン ト	入会したよ…入会時のみ1,000pt 変わりました…年間最大4,000pt 続けたよ…年間最大1,000pt 健診受けたよ…年間1回1,000pt 健康になったよ…年間最大3,000pt 年間最大22,000ポイント	歩数関連…2pt/日～20pt/日 お出かけ、運動事業参加…5pt/回 特定健診受診…500pt がん検診受診…100pt/回 介護認定卒業…1,000pt など 年間最大15,000ポイント
景 品	たかいし共通商品券、Pontaポイント、寄附	健康グッズ、Amazonギフト券、たかいし共通商品券、寄附等

健康に関心のある人だけでなく、無関心な人に対しても運動を行うきっかけ、あるいは運動を続ける動機づけになることを目的とした事業で、努力や成果がポイントとして蓄積され、参加者の健康生活が地域経済にも波及する仕組みである。

成果として、①一人あたりの医療費抑制効果（参加群の医療費増減は、6.6万円であり、対象群の医療費増減14.3万円と比較して、医療費抑制額は7.7万円であった）②BMIの改善（BMIが25.0以上の肥満者のうち、26%が普通体重に改善）、③メタボ該当者の減少が見られた。



【高石市での研修の様子】

### 【所 感】

今回、高石市を調査したが、東西6.1km、南北4.1kmで、市域が11.30km<sup>2</sup>とコンパクトな都市で、地形が全体的に平坦であることが「歩いてしまう、歩き続けてしまう」というスマートウェルネスの理念にマッチしたと見受けられた。景品を市内でしか使えない共通商品券を主にすれば、地元の商店街にもメリットがあり、健康問題の解決だけでなく、地域経済の活性化にも役立つのではないかと感じた。

また、『本市は、合併当初と比べ人口減少が著しい。自転車専用道を整備するなど思い切った政策をすべき』、『病院や商店など、歩いてほとんどの要件が済ませることができる中央商店街にスマートウェルネスシティが設置可能ではないか』等の意見が出された。

## 【岡山市】 調査事項：健幸ポイントプロジェクトについて

岡山市は、瀬戸大橋、岡山空港、山陽自動車道、岡山自動車道など広域高速交通網の整備が進み、中四国地方の中核拠点都市として発展を続けている。人口約70万人、面積789.92km<sup>2</sup>を擁し、平成21年4月1日に全国で18番目の政令指定都市に移行している。

平成26年度に厚生労働科学研究班が2010年時点での20大都市の健康寿命に関する調査結果を公表し、岡山市の健康寿命は、男性が69.01歳で18位、女性が72.71歳で15位と低位に位置していた。同時期に、健康づくり無関心層も含めた多くの市民を健康づくりに誘引できるインセンティブ制度の構築に係る実証事業（健幸ポイントプロジェクト）を行うという情報を入手し、健康寿命延伸のための取組の一環として実証事業に参加した。

### ○健康ポイント事業の変遷

名称	第1世代 健幸ポイントプロジェクト	第2世代 岡山丸ごと！健幸ポイントプロジェクト	第3世代 おかやまケンコー大作戦
実施期間	H26～H28	H29～H30	H31～R3 (SIB：H30～R4)
補助金等	スポーツ庁補助金（総合特区：全国6市実証実験）	地方創生推進交付金	地方創生推進交付金
総予算	約3億円/3年	約3千万円/2年	約4億円/5年
対象	40歳以上の市民	35歳以上の市民及び在勤者（企業枠のみ）	35歳以上の市民及び在勤者（企業枠のみ）
参加者数	4,431名（定員3,000名）	4,996名（定員5,000名）	目標15,000名
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入会したよ</li> <li>・がんばってます（歩数）</li> <li>・行きました（指定）</li> <li>・変わりました（体重・筋肉改善）</li> <li>・続けたよ（6カ月継続）</li> <li>・健診受けたよ</li> <li>・健康になったよ（健診データ改善）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩数関連（歩数）…最大10pt/日</li> <li>・お出かけ（講座・イベント）…最大50pt/月</li> <li>・健診…最大180pt/年</li> <li>・健康機器計測…最大5pt/月</li> <li>・健康食喫食…5pt/日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動…15pt/回</li> <li>・栄養、食生活…10pt/回</li> <li>・社会参加…5pt/回</li> <li>・健康機器計測…10pt/回</li> <li>・健診…30pt/回</li> <li>・イベント参加…5pt/回</li> <li>・歩数…1pt/日</li> <li>※1日4,000歩以上など</li> </ul>
インセンティブ	最大24,000pt/1年 (2万4千円分)	H29：約2,500pt（交換） H30：約5,500pt（抽選）	ポイントランキング⇒景品
歩数計測	活動量計（貸与）	活動量計（貸与）or 無料アプリ	活動量計（有料）or 無料アプリ
景品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店街商品券</li> <li>・全国共通商品券（UCギフトカード）</li> <li>・Pontaポイント</li> <li>・寄付「心豊かな岡山っ子応援団」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康グッズ（体組成計・血圧計）</li> <li>・無料食事券（タニタ食堂）</li> <li>・電子マネー（楽天Edy）</li> <li>・地元企業ポイント（たまルン）</li> <li>・寄付「心豊かな岡山っ子応援団」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討中（商品券、出資企業商品等）</li> </ul>

## ○健幸ポイントプロジェクトについて（第1世代）

スポーツ庁の補助金をもとに、健康づくりに無関心な層を含めた多くの市民に対し、運動を始めるきっかけや継続する動機となるインセンティブを付与することで健康づくりに取り組むことを促し、日常活動量の増加、運動習慣の定着、健康状態の改善を目指すことを目的とした事業である。（大阪府高石市も参加）

成果として、①40歳・50歳代の参加が4割以上、②歩数の増加（6,468歩/日→8,620歩）、③BMIの改善（BMIが25.0以上の肥満者のうち、30%が普通体重に改善）、④メタボ該当者の減少、⑤一人あたりの医療費抑制効果（参加群の総医療費増加額は、8.1万円であり、対象群の総医療費増加額12.2万円と比較して、医療費抑制額は4.1万円であった）が見られた。

## ○岡山丸ごと！健幸ポイントプロジェクトについて（第2世代）

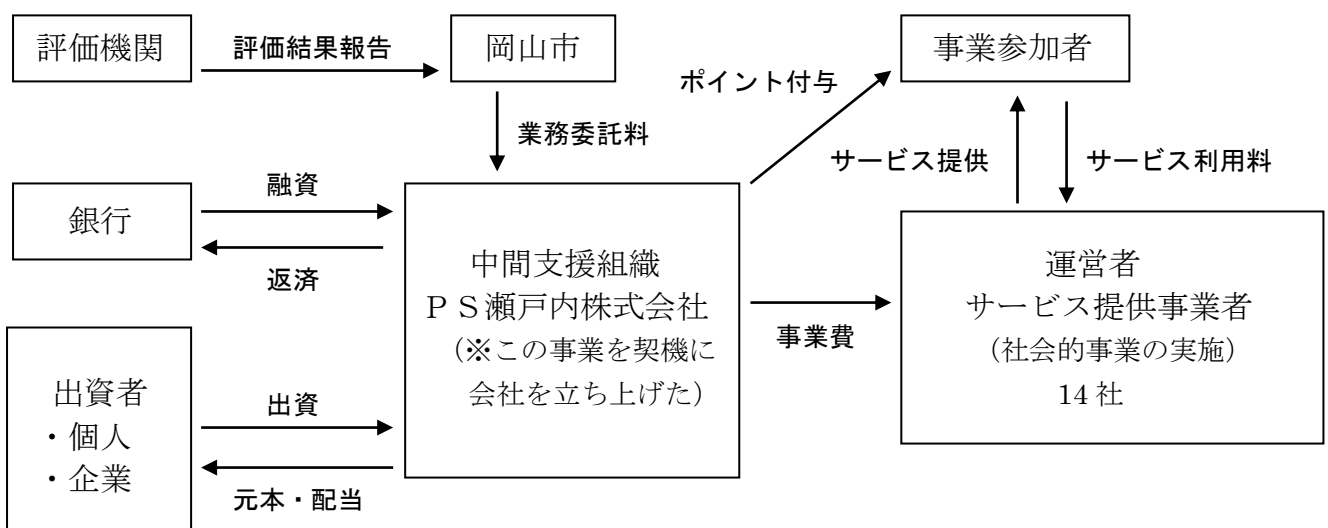
地方創生推進交付金をもとにした市単独事業で、実施期間が平成29年10月～平成31年3月まで。インセンティブに関しては、平成29年度は期間が短かったため、すべての参加者は自らのポイントと見合う景品と交換できたが、平成30年度は予算の都合上、抽選となった。事業内容に関しては、ポイントとなる事業を歩行、健診受診等の5項目に絞り、対象者を40歳以上の市民から「35歳以上の岡山市民及び在勤者（法人単位）」とするなど前事業と比べて予算が少ない分、工夫をしたとのことである。

予算の都合上、健康セミナーや健康イベント（落語・体操）等の未実施や景品を獲得ポイント交換制から抽選に変更するなどの影響もあり、前事業に比べて歩数の減少が見られたが、BMIの改善（BMIが25.0以上の肥満者のうち、19%が普通体重に改善）が見られた。



【岡山市での研修の様子】

## ○おかやまケンコー大作戦について（第3世代）



市民・民間企業・行政が一体となって岡山市の健康づくりを進める体制を整備し、SIBの考えをもとに新たな健康ポイント事業を展開している。1万5千の参加を目標にしているが、令和元年7月現在、5,800名の参加である。複数の事業者がサービスを提供（日本初）、複数の事業者が資金面の応援として事業に関わり（日本初）、複数の事業者が健康経営の視点で従業員の健康づくりとして参加している。まだ始まったばかりの事業ではあるが、大掛かりな事業の割には、参加者が少ないように感じる。

**【参考】●SIB（ソーシャル インパクト ボンド）：2010年にイギリスで始まった、官民連携の仕組みの一つで、行政や民間事業者及び資金提供者等が連携して、社会的課題の解決を目指す成果志向の取組み。**

### **【所感】**

今回、岡山市を調査して、健康ポイント事業を学び、インセンティブによる効果（歩数の増加、健康度の改善等）は確認できたが、実証実験時にポイントを多く付与できてしまった分、単独事業時には予算の都合上、健康イベント等を実施できなかつたり、歩数の減少が見られたりとポイントの付け方、参加者のモチベーションの維持に課題があると見受けられた。本市においては、医療費・介護費を抑えるために、グループ枠・企業枠の取組みで、30歳・40歳代の比較的若い時から自分自身の健康に対する意識をもち、日々の活動量を増やすのは良いことだと感じた。

また、『岡山市の事業は、ポイントを獲得するために、WEBサイト「からだカルテ」にログインしなければならず、高齢者には操作が難しいため、本市に導入するときは、印鑑を付くなどのアナログ方式でも良いのではないか。』、『本市のころばん体操にSIBの考え方（個人・企業から出資を募る、第三者機関による事業への評価等）を取り入れるべき。』等の意見が出された。